

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
生徒一人一人が大切にされ、安心して学べる学校 志をもち主体的に学び活動する思いやりある生徒 教育への情熱と夢をもち、生徒の意欲を引き出せる確かな指導力をもつ教師		学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲が高まる授業づくりのため研修会を行う。 基礎学力の向上のための補充的学習を充実させる。 家庭学習・自学力向上のための研修を行い、学校全体でその実践に努める。
		人権意識・道徳心の向上	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識が高まる全教育活動を通じた学校全体の取り組みを計画的に行う。 道徳心、道徳的実践力の向上をめざした道徳の授業の工夫や地域との連携に取り組む。
		不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> 不登校に対する指導、不登校をださない指導のあり方について研修を充実させ実践に努める。 適応指導教室の効果的な活用に努める。 学校、保護者、地域、SC,SSW、関係機関との連携を充実させる。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
積極的な生徒指導の充実	・生徒指導委員会、運営委員会を通じて組織力の向上やリーダー育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校のリーダーとなりうる教師に対して生徒指導の基本的なあり方について生徒指導委員会や運営委員会を通じて指導、助言を行った。相談や連絡、報告は迅速、確実になった。 もう少し若手教師をリーダー的な役割ができる職員に育てることが必要である。 不登校や不登校傾向の生徒に対してS,C,SSW等との連携、保護者、本人との校長面談などの取り組みを充実させ、解消した生徒は増えたが新たに不登校に陥る生徒がおり3割減は達成できず、今後、不登校生徒への関わり方や防止策についてもっと実践力を高める必要がある。 不安がないと回答した生徒は10%程度増加した。 	
	・全職員の連絡、相談、報告、実践の徹底を図る。		
	・不登校の3割減といじめゼロを目指す。		
	・アンケート調査で学校生活で不安がない項目に肯定的な回答をする生徒の割合が5%増加する。		
学力向上と心の教育キャリア教育の推進	・校内研修会で授業改善の研究を行い、学習規律の徹底、板書、発問、表現活動の工夫を自己評価させ、全教科で研究授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 模擬授業、授業発表を行うことで職員の授業づくりの視点が統一できた。 道徳のローテーションを一年間継続したことで道徳の授業の教材の工夫ができ、道徳に対する生徒の意欲が高まりアンケート調査の道徳好きの生徒が5%程度増加した。 授業改善の中で生徒の表現活動(交流)はかなり活発となったが定着度テストのポイントは、教科によって増減が著しくあり全体として向上が見られなかった。学習の定着のための補充学習や家庭学習の充実が必要である。 	
	・道徳授業でのローテーション授業を行う。実施後、検討会を行う。		
	・学習定着度テストの平均値を昨年度より各教科3ポイント向上させる。		
	・アンケート調査で思いやりや意欲の項目に肯定的な回答をする生徒の割合が5%増加する。		
職員の指導力向上	・校内授業研究や模擬授業を通じて授業力アップを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 模擬授業を行うことで職員相互に細かい授業技術について協議し意欲が高まった。 年12回の若手自主研修の結果、研修に対する意識が高まり、学び合う姿勢が向上した。 職員の指導力向上の達成度は92%であった。おおむね向上を目指す体制はできている。 個人面談で学校の課題や指導上の様々な問題点を聞くことで職員間の連携や連絡が円滑になった。 	
	・若手研修や個人面談を通じて職員の意識の向上を図る。		
	・職員の自己評価から意欲・指導力の向上の達成度90%を目指す。		
	・学校評価アンケート(保護者、教師、生徒)を行い、達成度90%を目指す。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> 学級懇談会の回数が減ったので学期に1回はお願したい。 家庭学習の習慣が定着していないので家庭への啓発、学習課題の提出チェックおよび評価を厳しくしていく必要がある。 地域行事への参加を増やして地域でのあいさつもより良きものに改善していく必要がある。 家庭への連絡(配布物が)確実に届くシステムを検討してほしい。 			